

氏名	神田 由築 KANDA Yutsuki
所属	人間文化創成科学研究科文化科学系
職名	准教授
学位	博士（文学）（1998、東京大学大学院人文社会系研究科）
専門分野	日本史
URL	
E-mail	kanda.yutsuki@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

近世
都市
文化
芸能
地域社会

主要業績

塚田孝編『身分的周縁の比較史』（清文堂出版）のうち「大坂の芸能と都市民衆」を執筆

「浄瑠璃にみる対面意識の変遷」（『文学』第12巻第2号、岩波書店）

研究内容 / Research Pursuits

近世の大坂では浄瑠璃に対して積極的な関わりを求める「素人」や「連中」といった人々が広範に展開していた。彼らは十八世紀後半頃から急速に成長する。それは、浄瑠璃が大坂という都市を基盤に発達したことと無関係ではない。こうした都市民衆のあり方を「社会的結合」の観点からとらえるならば、「社中」「組」なる結合形態が注目される。それぞれの「組」は、地域の性格によって「組」のありようもそれぞれにちがっていた。やがて、大坂の市域の拡大や都市社会の成熟とともに、「組」の結合単位が細分化されたり、ゆるやかな地域分布をもつ「組」が登場するようになる。一方、浄瑠璃作品の内容においても、十八世紀なかば頃から変化が現れる。近松門左衛門の作品が、「一分」という言葉で十八世紀前半の町人社会に内在する対面意識を描いたのに対して、身分制社会の内実の変化を反映して、「顔」という言葉に象徴される、侠客たちのストレートな義侠心が芝居の主題として躍り上がってきたのである。

■ 教育内容 / Educational Pursuits

学部教育においては日本史の基礎知識を養う「日本史概説」や多様な角度から歴史について学べる「比較社会史」を担当し、おもに1、2年生に向けて歴史への関心を喚起した。その他、比較歴史学コースの教員が分担担当する「歩いて学ぶ比較歴史」では、国立劇場の文楽鑑賞教室に学生とともに参加し、日本の伝統芸能を実体験する機会を設けた。専門教育としては、「日本近世史演習Ⅰ」「Ⅱ」等の演習科目において、史料の解読の方法や、先行研究の整理の仕方など、卒業論文を書くために欠かせない専門的な教育を行った。また、大学院の演習科目においても、修士論文や博士学位論文を書くための発展的な教育を行い、学生・院生一人一人の課題に応じた個別指導なども行った。その他、大学院科目として、「伝統芸能文化論」「伝統芸能文化研究」を担当し、歌舞伎や文楽といった伝統芸能に関する基礎的な講義を行うとともに、文楽座からプロの技芸員を招致して特別講座を設けるなど、身近に伝統芸能に触れる機会を設けた。

■ 研究計画

■ メッセージ